

No,

問

題

- 1 北海道上富良野町は三重県人が最初に入植。『納所町出身』の吉田貞次郎が村長となった。
- 2 津市役所が古くから保有する意外なお宝は、高村光雲作の『木造馬頭観音立像』である。
- 3 江戸中期に活躍した曾我蕭白は奇想の画家で、その作品は国内外で評価が高い。2012年6月現在、県立美術館は蕭白の重文指定作品『7点』を所有している。
- 4 久居藩は16代高邦まで約200年間続いたが、中には藤堂宗家津藩の藩主に迎えられた藩主もいる。それは『3人』である。
- 5 伊勢湾海洋スポーツセンター西裏に巨大碑が建っている。これは阿漕浦で漁を楽しまれ、獲物の中の逸品を両陛下と伊勢の両宮に献上された、『大正天皇』皇太子の時の孝行の美德を後世に伝えるものである。
- 6 ユネスコ世界文化遺産に登録された富士山。この富士山を御神体として信仰する富士講の礎を築いた美杉町出身の食行身禄（じきぎょうみろく）の生涯を描いた小説「富士に死す」の作者は『新田次郎』である。
- 7 閻魔堂すぐ南の教円寺に眠る国学者・生川正香（なるかわただか）の最も有名な著作は、動詞の活用の古典における用例などをまとめた歌集類語彙のひびき。その他にも近世女風俗考、米屋必用日々記事、『北槎聞略』などがある
- 8 伊勢新聞は明治11年創刊。創刊者・松本宗一は、藩政時代、松本崎（現島崎町）の干拓で知られる松本宗十郎の孫にあたる。松本宗一の出身地は『香良洲町』である。
- 9 雲出井は高茶屋四ツ野で3方面に水路を分けているが、その名前の一つに『八寸水路』がある。
- 10 津の楯干しは最初藩主や上流藩士の娯楽であったり、賓客接待のためだった。一般庶民が行うのは明治維新以後のこと。記録上、最も早く楯干しを行った藩主は『高次』である。
- 11 橋南地区垂水の大日堂には、伊勢参宮の途中に立ち寄った西行が、境内の木にスルスルと登った子供に和歌の問答でやりこめられたという話が伝わっている。現存する木はその名木の孫に当たると言われ『西行桜』と呼ばれている。
- 12 結城神社は鎮守の杜の一角にあった入道塚と小さな祠「結城明神」を、楠木正成の墓にならって大々的な墓碑に改め社殿を造り神社として整備した。この墓碑に刻まれた文字「結城神君乃墓」は藩主高允の筆。墓は『亀』の形をした台座の上にある。
- 13 高虎は幾つもの兜を持っていたが、最も有名なのが唐冠形（とうかんなり）の兜。これは『豊臣秀吉』からもらったものである。

- 14 高虎は家康晩年の第一の側近であり、2代将軍秀忠にも重用された。津藩の江戸幕府での立場は『別格外様』である。
- 15 谷川士清が20歳代の時、京都で学んだ神道は山崎闇斎の唱え始めた『度会神道』であった。
- 16 士清が著した「日本書紀通証」は、漢文で書かれた日本の歴史書「日本書紀」の全巻を解釈した書物であって『木版印刷』で出版された。
- 17 京都で勉強していた本居宣長は「日本書紀通証」の第1巻付録の動詞の活用図表『和語通音』を見て素晴らしい発明だと感激した。
- 18 士清が約21000語を収めた「和訓栞」は国語辞典であって、その語順は『いろは順』で並べられていた。
- 19 和歌を学んだ士清は私家版歌集を編んだ。その歌集は『恵露草』という。
- 20 江戸時代、伊賀街道八町通りには、江戸店（江戸に設けた支店）をもつ裕福な商店が軒を連ねていて、その中には『津緞子』という織物を扱う店があった。
- 21 一身田寺内町の寺町通りの下津邸の長屋門は、元は『坊官の建物』であった。
- 22 一身田の専修寺山門前にある矢来は、この門を境にして寺領と町屋を区別しており、歴史遺産として津市指定文化財になっている。この門の名前は『杭貫門』である。
- 23 専修寺如来堂屋根の妻には、夜になると蓮池へ餌を探しに飛び出してきたと伝わる『鷺』の彫刻がある。
- 24 伊勢別街道窪田宿で国道23号中勢バイパス工事中に、弥生～古墳時代、飛鳥・奈良時代の遺跡・遺物が大量に発見された。この中で一級品とされている物のひとつに『和銅開珎』銀銭がある。
- 25 慶長5年（1600）の津城籠城戦で敵方の首を多くあげ、当時の人が「鬼の小伝」と呼んだ分部光嘉の家臣『別所小伝』の塚が近鉄豊津上野駅前にある。
- 26 昭和45年に新設された千里ヶ丘小学校の校歌は、同48年に制定されたが、作詞者は童謡「サッちゃん」で有名な『まどみちお』である。
- 27 河芸町南黒田の観音寺には、日清戦争に出征する教え子6人の肖像を描いた絵馬が奉納されている。作者は『黒田清輝』である。
- 28 棕本地区、角屋旅館の玄関の軒下に古い木札が掲げられている。江戸時代には伊勢詣でのための「講」が全国各地に組織され、それぞれの「講」が指定した旅籠にこの札を掲げ、参宮客の目印としていた。この札を『講札』という。
- 29 芸濃町河内梅ヶ畑の浄得寺に、根回り約120cm、高さ約5m程の古木の五色椿がある。1本の木に、赤・白・ピンク・赤に白の斑入り、白に赤の斑入りの五色の花が咲く。この椿の樹齢は『400年』と伝わっている。

- 30 芸濃町小野平地区千度坊の山中に15体の地藏さんが彫られた大きな露岩がある。ここは長野氏の一族の菩提寺である曹洞宗の大伽藍があったとされ、この大岩は山門の位置にあたるという。この寺院とは『仙幢寺』である。
- 31 経ヶ峰の麓、安濃町草生地区に朝日山古墳群がある。多数ある横穴式石室の入口が穴のように見えることから『朝日百穴』と呼ばれている。
- 32 安濃町田端上野地区にある国史跡の明合古墳の形状は全国的にも珍しい『双方中方墳』で、まわりには数基の陪塚がある。
- 33 安濃町安濃地区の松原寺には義士新三郎碑がある。これは江戸時代の『一揆』の犠牲となった人の碑である。
- 34 安濃町栗加地区の伊蔵神社には江戸時代の水争いの時に武器として使われたという『鋤』が残っている。
- 35 室町時代、白檜村（現在の美里町足坂地区）の住民が代官の命令で、説教に来ていた良善上人を釜茹でして殺害した際、その一部始終を橋のたもとで覗いていた代官は乗っていた馬とともに川に転落したと言われる。今もその当時の名前が残る橋の名は、『牛洗橋』である。
- 36 中世（13～16世紀）に美里で栄えた長野氏は、室町幕府との関係が深く、奉公衆として、京都の『応仁の乱』にも参戦した。
- 37 美里町足坂地区の高宮小学校の裏山に今峯城跡がある。すぐ東の五百野の外山城とともに、室町時代に『長野氏』一族が構えた城と言う。
- 38 美杉町奥津地区谷口の正念寺には風格のある鐘楼門がある。旧梵鐘は戦時中供出、平成3年に新調され『平和の鐘』と彫り復活した。
- 39 北畠神社境内にNHK大河ドラマ太平記で北畠顕家を演じた後藤久美子をモデルにした顕家像がある。南朝の重鎮、親房の長男、21歳で戦死した悲劇の彼を人は『花將軍』と呼ぶ。
- 40 明和9年（1772）3月、本居宣長は吉野の桜見物の帰り、美杉町多気を訪ねる旅の途中、「風雨が激しくなり石名原で宿泊した」と自ら記している。この書物は『奈良紀行』という。
- 41 白山比咩神社（白山町川口）の本殿は、昭和31年に県有形文化財の指定を受けた。手前の拝殿の正面に大きな紋章が取り付けられ、『正白山』と記されている。
- 42 白山町古市地区に2基の古墳があった。先人はそのうち1つを古墳と知らず、地ならしをして『首塚大明神』を建てた。
- 43 一志町波瀬地区の地藏塚、大仰の成福寺境内と小山の宮池近くには、六地藏を石塔の六面に刻んだ『石幢』という珍しい石造物がある。
- 44 一志町波瀬地区で醍醐天皇の命により創建されたお寺は『安楽寺』である。

- 45 一志町大仰地区にある誕生寺には、全国的にも注目されている珍しい石仏『阿弥陀如来立像（市指定文化財）』がある。
- 46 一志町石橋地区の不動院の境内裏山には津市では珍しい魚を手にしたお大師様が祀られており、『鱧大師』と呼ばれている。
- 47 一志町日置地区にある平楽寺の五智堂に安置されている5仏の内、津市指定文化財に指定されているのは大日如来坐像と『阿弥陀如来坐像』である。
- 48 寛文9年（1669）津藩2代高次は隠居と共に長男高久を宗家津藩3代藩主に、次男高通（たかみち）には5万石を分領し久居藩を立藩。3男高堅（たかかた）には『5千石』を分領地した。
- 49 久居幸町（さやまち）にある市指定文化財「子午（とき）の鐘」。現存する鐘は元文元年（1736）津の名工・辻種茂の作。藩政時代は毎日撞かれ士民に親しまれた。この鐘は元々は『久居陣屋』にあった。
- 50 平家伝説のある久居桃園地区の神社で別名「笛吹天王」。安元元年（1175）平重盛が作らせ、孫の六代まで引き継がれた笛吹天神像をこの神社に祀ったところ、月明かりの夜になると笛の音が聞こえるようになったと伝える。この神社とは『木造神社』のことである。
- 51 七栗の湯として古来から都人に愛されてきた榊原温泉。射山神社に祀られている温泉の神を守護神とし、天正16年（1588）その神社を温泉大明神と位置づけ、当時わが国最大級の湯治場を作ったのは『榊原氏』である。
- 52 榊原温泉は湯治場として江戸時代にずいぶん栄えた。元の湯治場の場所は今も温泉施設として活用されている。それは『神湯館』である。
- 53 南北朝時代の武将・仁木義長は三河、伊賀、伊勢、志摩などの守護を兼任した。その5代末裔の利長が榊原の地に住み、姓を榊原と改めた。これが『榊原氏の始まり』である。
- 54 榊原温泉の湯治場に風情を添えてきた枝垂れ桜「糸桜」は、和歌や俳句に詠まれるなど来訪者から親しまれてきた。『松尾芭蕉』は榊原温泉に逗留して「葉桜に袴の裾もぬれにけり」の句を残している。
- 55 射山神社裏に湯元跡がある。神代の時代からこんこんと湧き続けていた温泉は、昭和になって『地殻変動』で涸れた。
- 56 榊原の林性寺に県内でも珍しい猫を描いた釈迦涅槃図があり、毎年3月15日にご開帳される。作者は室町時代の画僧『兆殿司（ちょうでんす）』という。
- 57 新香良洲大橋北詰東にある常夜灯は、香良洲神社に詣でる旅人のために元治2年に建立されたもので、171名の名前が刻まれている。発起人筆頭の松本信任は当時の地元『大庄屋』である。

- 58 香良洲歴史資料館前の屋外展示物に錨がある。この錨はある名将を偲び一銭募金により昭和9年に津偕楽公園内に建てられ、同53年に現在地に移設されたもの。この名将とは『東郷平八郎』である。
- 59 香良洲の道は桜がたくさん植えられていて、歴史上の有名人も香良洲の桜を見に来たという記録がある。その人は『松尾芭蕉』である。
- 60 三重海軍航空隊の兵舎は、戦後『公務員宿舎』に使われていた。
- 61 津市の面積は琵琶湖より少し広い710.81平方キロメートルだが、全国の県庁所在地面積ランキングで『16位』である。
- 62 津市は外国の都市と友好都市や姉妹都市を締結している。姉妹都市は『中国の鎮江市』である。
- 63 津地区には産品（うぶしな）、安濃地区には村主（すぐり）、美里地区には日南田（ひなた）、久居地区には新家（にのみ）など難読地名がある。芸濃地区の雲林院の読みは『うじいん』である。
- 64 通称「近鉄道路」、南郊地区では「サンバレー通り」とも言う。この市道の岩田川に架けられた橋は、昭和36年に廃止された『参宮線』の鉄橋を再利用したものである。
- 65 津市街地から西方にどっしり構える経ヶ峰。その前にあるのが長谷山だが、この長谷山の別名は『産品山』である。
- 66 高虎が天正15年（1587）九州での戦功などにより2万石の大名格として与えられた領地は『紀伊国赤木』である。
- 67 県立香良洲公園に生育する色々な老松の種類は『黒松』である。
- 68 専修寺御影堂や如来堂の大屋根など一身田寺内町を遠望できる、三重県総合文化センター近くに復元・保存されている15～16世紀頃築城の城址は『上津部田城址』である。
- 69 伊勢上野城は当時中勢地域では大きな城の一つであったと考えられるが、その城域は『東西250m南北550m』である。
- 70 河芸町上野地区の円光寺は分部氏の菩提寺だが、歴史ファンのほか写真愛好家も多く訪れる。紅葉の名所であり、『石楠花』の名所でもある。
- 71 地元の人に「いねふりさん」と呼ばれて親しまれている式内彌尼布理神社は『河芸町北黒田』にある。
- 72 芸濃町には人々に親しまれ名前が付けられている山が4つある。一番高い経ヶ峰、マッターホルンのような稲子山、丸い形の摺鉢山、秀麗な三角錐の山容の錫杖ヶ岳である。このうち標高が676mなのは『錫杖ヶ岳』である。
- 73 安濃城跡には現在も空堀、土塁などが残っており、丘陵城郭としては県下1、2の大きさといわれている。現在は主郭部分に『安濃神社』が建っている。

- 74 長野峠の今では使われていない明治と昭和のトンネルは短く、300m以内。平成のトンネル（新長野トンネル）はかなり長くなり、『1500m』となった。
- 75 平成20年4月「森林セラピー基地」として美杉町は、東海3県で初めて認定を受けた。それぞれ特色の異なるセラピーロードが現在『12コース』ある。
- 76 青山高原には3本の滝で構成されている「布引の滝」がある。上から霧生滝・飛龍滝・『青山滝』と命名されている。
- 77 白山町家城地区に真見城跡がある。入口には庚申さんが祀られ、城郭には正徳4年（1714）建立の石灯籠がある。この城跡の地名は『殿屋敷』という。
- 78 久居城下のまちづくりは、城下の東側に本町・二ノ町をつくり商人や職人を集住させ、北側は『生活用水が困難』の理由でまちをつくらなかった。
- 79 現在、成人の日に阿漕浦で「観海流」の寒中水泳が行われているが、以前は『塔世橋下流』で行われていた。
- 80 津の伝統工芸「阿漕焼」の前身は、古萬古焼の流れをくみ、津藩のお庭焼ともなった『安東焼』である。
- 81 岩田川浄化運動の一環として津青年会議所が平成2年に創設、今や1万人以上の来場者がある夏の風物詩に育っている岩田川の七夕笹流しの会場は『観音橋』である。
- 82 平成24年12月、河芸・円光寺、津駅東・初馬寺、県庁東・四天王寺、大門・津観音、丸之内・高山神社、藤方・結城神社、榊原・地蔵寺の5寺2社の神仏習合で開創した伊勢の津七福神。結城神社に祀られているのは『福祿寿』である。
- 83 河芸町東千里では津市指定無形民俗文化財の獅子舞が今も4年に一度舞われている。この神社は『式内尾前神社』である。
- 84 芸濃町雲林院地区の美濃夜神社の参道は階段状で、途中で踊り場が5か所設けられている。この踊り場に5か村の村人達が集まりお参りをしてから、『かんこ踊り』をおこなった。
- 85 安濃町草生地区に伝わる八百比丘尼伝説では、八百比丘尼が亡くなる時にある遺言を遺した。それは、草生の地に『黄金の鶏と縄』を埋めたというものである。
- 86 安濃町草生地区の祠に20体の石地蔵がある。病気を治してもらったお礼にベンガラを塗ったということから『ベンガラ地蔵』と呼ばれている。
- 87 美里町北長野地区の細野集落を越えて、かなり高い山中にある「目無地蔵」は、目の病気にご利益があると言われ人気があるが、昔は『目治し地蔵』と呼ばれていた。
- 88 五穀豊穰を祈願して、お盆の時期に美里町南長野で行われている「かんこ踊り」の特徴は、踊り子が太鼓のほかに、『米俵』をつけて踊ることである。
- 89 美里町家所地区の辰水神社に、地元有志の手で作られたジャンボ干支が毎年12月に奉納されているが、そのジャンボ干支の主たる材料は『和紙』である。

- 90 美杉町三多気の桜並木道の途中にある茅葺き屋根の田中家住宅は、付近一帯の景観を支える大きな要素、個人所有で『国登録文化財』である。
- 91 美杉町杉平地区の「精進祭り」は、杉の木で男根を作り精進料理ばかりを眞福院に祀ることから、その名がついた。この料理に使われる主な食材は『大根と大豆』である。
- 92 美杉町奥津地区須郷に「おんぼさん」と愛称される延命地蔵菩薩がある。うば咳（百日咳）の子供に地蔵さんのよだれかけを掛けてやると楽になったと言われ、『毎年8月24日昼』地蔵会が行われる。
- 93 白山町元取地区に幕末から変わった餅つきがある。その年の新米を氏神に奉納し、五穀豊穰、村民親睦、郷土の繁栄などを祈念して行われている。この餅つきは『千本つき』という。
- 94 一志町大仰地区にある大井神社では毎年1月「昔、村人が協力して大暴れする大蛇を退治した」という言い伝えに基づく『弓引き神事』が行われる。
- 95 久居の夏の名物は陸上自衛隊駐屯地グランドでの花火大会「サマーフェスタ」。駅前というアクセスの良さから大人気。もうひとつの人気の理由は『スーパー仕掛け花火』である。
- 96 平成25年3月に香良洲町で、20年ごとに行われる香良洲神社の遷座にともなう大祭があった。それは『お木曳祭り』という。
- 97 戦前、安濃町を走っていた軽便鉄道は産業基盤が弱かったので、観光事業で安濃川を利用した『鵜飼』を行っていた。
- 98 一志町高野地区の高台にある高野浄水場では『波瀬川』から取水し、津市・松阪市へ飲料水として供給している。
- 99 百五銀行は明治11年12月、第百五国立銀行として設立され（名前は国立だが民営）翌年3月から大門で営業を開始した。初代頭取は『川喜田四郎兵衛』である。
- 100 金属加工の独自技術で小さな世界企業として知られる安濃町荒木の中川製作所。世界で評価された原点の製品は『紡績針』である。
- 101 丸之内の大谷履物店が津商工会議所や行政などの支援を受けて開発したオリジナル商品。伊勢の木綿を使った鼻緒に、畳表の感触を組み合わせ、足にも心にもやさしい、母ごころ溢れる草履として大好評。この草履は『安濃津履き』である。
- 102 一身田寺内町を元気に宣伝してくれる、本名は「高田身一」というキャラクターの愛称は『しん坊くん』である。
- 103 安濃ダムの上流に研修施設が併設された公園がある。石工芸体験やバーベキューもできる。川は幼い子ども達が安全に水遊びできるように、地元のボランティアグループが毎年7月上旬に川床の整備をしている。この自然体験施設は『落合の郷』である。

- 104 安濃町で生産されていた特産品で、江戸時代に津藩が献上品として用いていた織物は『津緞子』である。
- 105 青山高原には、風車が林立している。2010年度の増設計画で、白山地区・伊賀（青山）地区に40基が建設される。完成すると『95基』となる。
- 106 榊原には無料で利用できる足湯が2か所ある。一つは消防署跡地にできた榊原温泉郷「おもてなし館」、もう一つは『日帰り温泉湯の瀬』である。
- 107 元津藩士で水路測量の父と称えられる柳檜悦を祖父に、民芸運動の提唱者・柳宗悦を父に持ち、調理器具をはじめ様々な分野の工業デザイナーとして活躍した人物は『柳理悦』である。
- 108 現在香良洲町の港と言えば香良洲漁港だが、かつて雲出川（南流）に川港があり、雲出川流域各地の物流拠点として栄えていた。港の名は『前川港』である。
- 109 久居・香良洲の特産品は梨。8月上旬～9月にかけて久居地区では国道165号沿いにたくさんの店が並ぶ。一番早くとれる品種は『幸水』である。
- 110 三重会館北隣の中津軒は明治末期から続くレトロな老舗洋食店。文明開化の味がするとと言われる名物メニューは『メアベア』である。
- 111 「白塚まんじゅう」の餡は白塚地区特産品の『かぼちゃ』を使用している。
- 112 榊原温泉土産として榊原で製造販売しているお菓子は、『榊原せんべい』である。
- 113 一身田の「お七夜」名物。老舗の和菓子屋さん「岡田屋」が発祥であるとされる、この名物は『おたやんあめ』である。
- 114 河芸町豊津地区で昭和28年ごろ水揚げ量が全国1位であった魚は、『ヒシコイワシと小女子』である。
- 115 錫杖湖のほとりにある錫杖湖水荘は収容人員45名の宿泊施設。会議室や研修室などがあり、レストランでは四季折々の旬の素材にこだわった料理が水辺の景色を見ながら味わえる。この湖水荘は『ダム工事事務所』を改築したものである。
- 116 美里町北長野地区にある美里農産加工センターは、一般の地元住民も利用できる。冬場に大勢が協力して作り、持ち帰っている人気食品は『味噌』である。
- 117 白山町中ノ村地区の地産直売所「ぬくいの郷」隣に地元で生産される原材料を使い、添加物を使わず味と品質にこだわった『味噌』を生産する工房が併設されている。
- 118 久居藩主も参勤交代で1年ごとに江戸と久居を往復した。久居藩の大名行列は100人位で、将軍へのお土産は藩の名物『鮎の甘露煮』であった。
- 119 二百余年の歴史が息づく、調理みそ・横綱味噌・醤油やゆべし等、手間隙をかけて老舗の味を今に受け継ぐ久居戸木地区の店は『辻岡醸造(味噌伝)』である。
- 120 かつて雲出川の水運を利用して米の集積地でもあった香良洲町には造り酒屋が何軒もあったが、現在は今村酒造がひとり気を吐いている。代表銘柄は『きげんよし』である。

